

中学校 美術科 部会

部会長名 校長 伊藤 敬之
実践者名 教諭 福田 全宏

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導の研究
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な要請と新学習指導要領の動向から

現代社会では、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速的となり、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展している。このような予測できない社会の変化に子どもたちは主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、社会や人生、生活をより豊かなものにしていく生きる力の育成がこれからの学校教育に求められている。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）において、これまで学校教育で目指してきた「生きる力」を踏まえながら教育課程全体で資質や能力が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理された。また、学校においてこれらの資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことがうたわれ、その改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

このような流れを受けて美術科においても以下のような改訂が行われた。教科の目標では、生活や社会の中の美術、美術文化などと豊かに関わる資質・能力をより一層重視している。また、目標を三つの柱、①造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの（知識・技能）、②表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの（思考力・判断力・表現力等）、③学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの（学びに向かう力・人間性等）で整理された。これらの目標は相互に関連させながら育成されることなどの方向性が示された。

これらのことを踏まえて、美術科では周囲の対象や事象を造形的な視点で捉えて、生徒が自分としての意味や価値をつくり出しながら、自己の考えを形成したり、思いを基に構想、創造したりしていく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが重要である。

(2) 生徒の実態から

美術は、心を生き生きと働かせる主体的な創造活動を通して、自己実現を果たしていく学習である。その中で、よいものや美しいものをつくり出す喜びを実感的に味わうことにより、よさや美しさを自分の中で大事な価値とし、それらにあこがれる心が一層豊かに育っていくことが望まれる。しかし、学年が上がるにつれて苦手意識が強くなり、「思い通りにできない」「自分には才能がない」等、美術の能力や自己肯定

感の低さを感じる生徒の存在が見られる。学習に対する個人差が大きく、意欲・学力ともに二分化される傾向がある。作業を中心とする表現活動への興味・関心は高いが、自分らしいよりよい作品に仕上げたいといったこだわりの欠如や自己実現にまで至らないことが見られる。また、見たり聴いたりするといった鑑賞活動に対しては退屈に感じる傾向が強く、友達作品にあまり目を向けず、新たな考えを取り入れる機会を逃していることも多い。どちらの活動においても、主体性や学びの深まりが得られていない傾向がある。

以上のことから、主体性や学びの深まりに留意して、対話的な学びを指導計画に位置づけ、表現と鑑賞の相互の関連を図り、総合的に働かせることで学習の一層の深まりが得られる。このことは、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会を心豊かに生きてく生徒に求められている資質・能力を育成する上で意義深いと考える。

3 主題の意味

(1) 思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導とは

美術科における「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力は、表現学習を通して育成する発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の学習を通して育成する鑑賞に関する資質・能力によって育成されるものである。

表現においては、主題を生み出すことを重視して豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ったり再度練り直したりすること、鑑賞においては、造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの見方や感じ方を深め、育成することが、美術科における思考力・判断力・表現力を高めることである。

それぞれの生徒が形や色彩などの造形の要素の働きやイメージなどを豊かに捉えながら美的、創造的な構成を考える学習活動を展開することが、より深い思考力・判断力・表現力を育成することにつながると思われる。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは

「主体的な学び」の実現を図るには、育む資質・能力を生徒が正しく理解できるようにねらいを明示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにすることが大切である。その上で、生徒自身が自らの変容を自覚できるような振り返りの機会を設定する。例えば、主題の創出の場面で複数のアイデアを考えると、それをまとめていく思考の過程が確認できるようなワークシートを工夫し、自分としての意味や価値を具体化していく過程が認識できるような自己評価の機会を指導計画に位置づけていくことで、主体的に学びに向かう力は高まっていくと考える。

「対話的な学び」を指導計画に位置づける際には、言語活動を通して生徒がどのような力を身に付けるのか、活動のねらいを明確にすることが重要である。目的や視点、条件などを示して、そこから対象や事象を捉えて、意見を述べ合ったり批評し合ったりすることは、学びを深める上で大切なことである。集団による話し合いとともに自己との対話を深めることも重要な要素である。まず、自己の価値意識を持ち、それを他者との対話でより広めたり深めたりしていくことによって、主体性や学びの深まり

が得られる。対話的な学びを適切に指導計画に位置づけていく必要がある。

また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びにおいても相互に関連するものであり、主題の追求過程や表現の構想段階、創意工夫しながら技能を働かせる場面や鑑賞など様々な過程において、生徒が自分としての意味や価値を見だし表現につなげていくことが重要であると考えます。

したがって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、美術の学びを質的に深めるものであると同時に、学びを生き方や人生とつなげていくものと捉えて、「造形的な見方・考え方」を働かせた生徒の主体的な学びを保障しつつ、表現と鑑賞を相互に関連させた授業展開の工夫を行うことである。

4 研究の目標

美術科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることについて究明する。

5 研究仮説

美術科の表現及び鑑賞の学習活動において、更なる学習意欲を引き出すための振り返りの場や、自他の制作の意図や作品のよさにふれる学び合いの活動を設定すれば、生徒が造形的な見方や考え方、感じ方を働かせ、思考力・判断力・表現力が高まるだろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材「絵文字（文字のデザイン）」

(2) 題材の目標及び指導計画

題 材	絵文字（文字のデザイン）	総時数	10時間	時期	9月
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ レタリングとイラストレーションを中心とした様々な素材の組み合わせによる絵文字の制作を通して、自分の主題を深めながら造形的な創造活動を楽しみ味わおうとしている。(美術への関心・意欲・態度) ○ 漢字の意味や形を生かしながら、自分の表現意図に合わせて形や色彩で効果的に美しく表すデザインの構想を練ることができる。 (発想や構想の能力) ○ レタリングなどの基本的な技能を踏まえながらアイデアスケッチを描くことを通して、表したいイメージを具現化することができる。 ○ アクリルカラーの特性を生かしながら美しく着色し、自分のイメージに合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現できる。 (創造的な技能) ○ 身の回りにある様々な文字のデザインや自他の作品を鑑賞し、それぞれの発想や構想のよさ、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、味わうことができる。 (鑑賞の能力) 				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)	
1	1	・デザインの性質や機能、よさに気づく	・デザイン作品を鑑賞し、造形要素が効果的に働く表	○デザインの性質や機能、よさについて、画像	

		<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵文字表現に関心を持ち、制作の目的や条件を理解することができる。 	<p>現に関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵文字表現に関心を持ち、目的や条件を理解する。 ・初発のアイデアを積極的に複数スケッチする。 	<p>や参考作品を提示して、視覚的にも実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体例を提示して、制作の条件や作品づくりの見通しを持たせる。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・題材について理解し、自分なりのアイデアを発想することができる。 ・絵文字制作のポイントや条件について理解し、構想することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を鑑賞し、絵文字制作のポイントや工夫点について考え、絵文字のアイデアを発想する。 ・絵文字制作のポイントや条件について理解し、アイデアスケッチを行い、構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵文字制作のポイントや工夫点についての画像や参考作品を提示して、視覚的にも実感させる。 ○ワークシートを活用してアイデアをまとめ、制作の見通しを持たせる。
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・決定したアイデアの意図や工夫点を文章で表現し、伝えることができる。 ・自他のアイデアスケッチのよさや面白さ、作者の意図や工夫点を感じ取り、味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決定したアイデアの意図や工夫点を文章で表現し、言葉で伝える。 ・お互いの作品を鑑賞し合い、仲間の作品のよさを具体的に言葉で伝える。 ・自分の作品の新たな工夫点や改善点について考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の視点を具体的に提示する。(学び合い①) ○ワークシートを活用して、自分のアイデアの意図や工夫点をまとめる活動の後に、作品交流会を行い、お互いの作品のよさを感じ取り、味わうことができるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の意図や工夫点を交流し、表現内容が更に深まるように構想を練り上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更にアイデアスケッチを見直し、付加修正し、下書きを描き終える。 ・アイデアスケッチをスケッチブックに転写する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを活用して、交流会後の各自のアイデアを深め、完成までの見通しを持ちながら下書きを完成させる。
3	5 6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・完成までのイメージを持ち、色調や配色の効果などを考え、学習した技能を生かしながら着色することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを整理し、色調や配色を工夫する。 ・デザイン技法の基礎内容や道具の使い方を確認し、アクリル絵の具を使って丁寧に着色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージに合う配色を考え、効率のよい手順で美しく着色させる。 ○色むらやはみ出しがないように注意を促し、修正も行わせる。
4	10	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を味わい、制作過程を振り返り、感じたことを文章で表現することができる。 ・自他の作品のよさや美しさ、作者の思 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を鑑賞し合い、作者の思いや作品のよさを文章で表現し、言葉で伝え合う。 ・完成した作品を味わったり、制作過程を振り返ったりして、気づいたことや感 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の視点を具体的に提示する。(学び合い②) ○ワークシートを活用して、自分のアイデアの意図や工夫点をまとめる活動の後に、作品交流会を行い、お互いの作品のよ

	いを感じ取り、味わうことができる。	想をワークシートにまとめる。	さを感じ取り、味わうことができるようにする。
--	-------------------	----------------	------------------------

7 指導の実際

(1) 本時 令和元年9月30日(月) 第3校時 美術科教室に於いて

(2) 主眼

○自分の表現意図や工夫した点を文章で記述し、ワークシートを活用して仲間と交流することを通して考えを練り上げ、自分の構想を深めることができる。

○自他の作品を鑑賞する活動を通して、発想や表現のよさ、改善点などの感じ取ったことを文章で表現することができる。

(3) 本時の指導観

導入段階では、テレビ画面に映し出した映像を鑑賞し、作者の表現意図や表現方法への気づきを促す活動により、授業の雰囲気づくりや学習意欲を高める活動を行い、学びに向かう姿勢づくりを行う。続いて、本時が鑑賞の学習であることを確認させるために、自分の思いや考えを積極的に表現することの大切さを具体例を示して伝える。その後、参考作品を提示して、制作条件や鑑賞の視点を確認させる。それから、キーワードの組み合わせを考えさせることで問いづくりを行い、課題意識を高め、めあての設定につなげる。

展開段階では、まず最初に、ワークシートの活用方法を説明して、仲間と交流することで考えを練り上げ、自分の構想を深めていくという活動に対する見通しを持たせる。次に、各自のアイデアスケッチのこだわりや工夫した点について個人で考えをまとめる。その際、机間指導で生徒の活動を把握しながら、表現内容や表現方法のよさを伝えたり、躓きを支援したりする。その後、班員のアイデアスケッチを鑑賞し合い、アイデアのよさや工夫した点について感じ取ったことをワークシートに記述させ、それから、自他の作品のよさや工夫した点を交流させながら、考えを広げるという思考づくりを行う。この活動において、個人の思考が班で広がっていくことを実感させることより、学び合い学習のよさに気づかせることができる。また、その後の学級全体で交流する際には、デジタルカメラで撮影した各班の代表作品をテレビ画面に映し出したものと、黒板に貼り出させた班ごとのホワイトシートを基に交流し合うことで、更にアイデアの広がりを実感できる。その際、表現内容のよさや努力の跡を認め合い、今後の制作に生かすように留意させる。

終末段階では、めあてを再度確認させ、多様な表現のよさや面白さについて思考し、ワークシートに各自のアイデアの工夫する点や改善するところを文章で表現させる。自分の言葉でまとめることを通して、学んだ内容について価値づくりを行い、深めさせる。次に、数名の生徒を指名し、ワークシートの記入内容を発表させることで新たな学びを広げる。最後に、参考例を提示して、次時はその学びをアイデアスケッチにまとめ、本制作の中で高めていくことを確認させる。

(4) 準備

ワークシート、ホワイトシート、ホワイトシート用ペン、参考資料、参考作品
板書カード、テレビ、デジタルカメラ

(5) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点
導 入	<p>1 ウォーミングアップを行う。</p> <p>(1) 作者の表現意図や表現方法について確認する。</p> <p>(2) 鑑賞の学習について確認する。</p>	<p>○学習意欲を高め、学びに向かう姿勢をつくるために、テレビ画面の映像を鑑賞させ、作者の表現意図や表現方法への気づきを促す。</p> <p>○鑑賞の学習において、自分の思いや考えを積極的に表現することの大切さを伝える具体例を提示する。</p>
	<p>2 本時のめあてを確認する</p> <p>(1) 制作条件や鑑賞の視点について確認する。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○制作条件や鑑賞の視点を確認させるために、参考資料や参考作品を提示する。</p> <p>○鑑賞についての課題意識を高め、めあての設定につなげるために、キーワードの組み合わせを考えさせる。 【問いづくり】</p>
<p>めあて 自他の作品を鑑賞し、よさを感じ取り、アイデアを深め合おう！</p>		
展 開	<p>3 自他のアイデアスケッチを班で交流する。</p> <p>(1) 個人で考え、ワークシートに記述する。</p> <p>(2) 班で考えを交流し合い、意見をまとめる。</p>	<p>○自分の考えを練り上げ、構想を深めていくために、仲間と交流する活動の内容と方法を確認させ、学習の見通しを持たせる。</p> <p>○各自のアイデアスケッチのこだわりや工夫点についての考えをまとめ、学び合いにつなげるために、ワークシートを丁寧に活用させる。 【思考づくり①】</p> <p>○表現内容や表現方法のよさを伝えたり、躓きを支援したりするために、机間指導で生徒の活動を把握していく。</p> <p>○アイデアのよさや工夫した点を直に感じ取り味わうために、アイデアスケッチを鑑賞し合う学び合い活動を班隊形で行わせる。 【学び合い】</p> <p>○全体交流に備えて、各班の代表作品をデジタルカメ</p>

	(3) 学級全体で交流する。	<p>ラで撮影する。</p> <p>○学級全体での交流を行うために、班ごとにホワイトシートに記入し、黒板に貼らせる。</p> <p>○全体交流を視覚的にも実感させるために、デジタルカメラで撮影した各班の代表作品をテレビ画面に映し出し注目させる。</p> <p>○学びを今後の制作に生かすために、自他の表現内容のよさや努力の跡を認め合うように留意させる。</p>
終末	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 個人で考え、ワークシートに記述する。</p> <p>(2) 学級全体で交流する。</p>	<p>○今後の制作に生かすために、学び合いで感じ取った多様な表現のよさや面白さ、各自のアイデアの改善点や工夫する点について思考し、文章で表現することを指示する。 【思考づくり②】</p> <p>○学んだ内容について価値づくりを行うために、自分の言葉でまとめる活動を通して深めさせる。 【価値づくり】</p> <p>○学級全体に新たな学びを広げるために、数名の生徒を指名し、ワークシートの記入内容を発表させる。</p>
	<p>まとめ 自他の作品を鑑賞し、仲間と交流する活動を通して、多様な表現のよさや面白さを味わうことができる。</p>	
	5 次時の内容を確認する。	○次時の内容を確認させるために、参考例を提示する。

8 研究のまとめ

本題材では、発想や構想を更に深める学び合い1の場と、自他の完成した作品を交流する学び合い2の場を設定した。

学び合い1の際には、ワークシート（いいところ発見シート）の工夫とその効果的な活用によって、「私は文房具が好きなので、それを表現したい」「この部分が富士山に見えたから、漢字のバランスを崩さないように絵を入れたい」など、主題に対する思いやアイデアへのこだわりを、各自の発想や構想を振り返りながら具体的に文章で表現することができた。そして、それを基に次の協働的な対話による学び合いの学習場面へと導くことができた。その際には、造形的な見方や考え方を働かせながら自他の制作の

意図や作品をよさを感じ取り、味わうことができた。更には、得られた思いや考えの交流により、新たな改善点として「はさみを加えて鉛筆を無くす」「字全体を少し大きくする」「緩い感じを全面的に出す」などのような発想や構想、表現意欲の高まりが見られた。つまり、学び合いを通して主題が明確化され、初発の発想を更に深めることができたといえる。

また、この発想や構想を更に深める学び合い後の感想では、「様々なアイデアが出ていて面白い。そこには自分の好きなことや経験が反映されている」「私の中では想像できないところがあったので、他の人のアイデアにふれるのもよい経験になった」と仲間のアイデアのよさや工夫した点などを参考にできたことで、自分の今後の制作に取り入れ、よりよい作品にしたいという意欲や主体性の高まりが見られた。

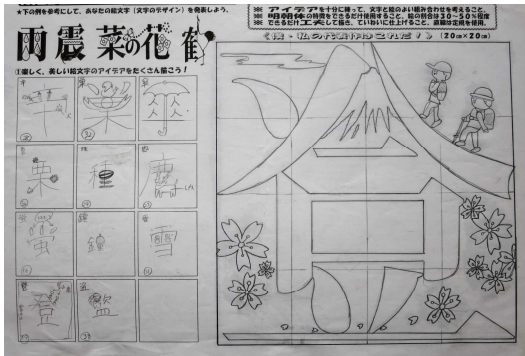
以上の結果から、発想や構想段階において対話的な活動を位置づけることは、生徒の発想や構想の能力を高め、制作への意欲を向上させる上で有効であったといえる。

更に、自他の完成した作品を交流する学び合い²⁾の際には、「思いつかないようなアイデアや色、印象など、たくさんのこだわりや個性を感じた」「色合いや色の強調の仕方などを少し変化させるだけで、全体の印象が大きく変わることを感じた」と、作者のこだわりや工夫した点などの内容や、技法などの表現方法の多様性やよさを感じ取り味わうことができていた。また、自分の制作活動を振り返り、「もっと細かく正確にすべきだった」「まだ工夫できたので、次回は丁寧に仕上げたい」と、次の創作活動への意欲や探究心が生まれていた。

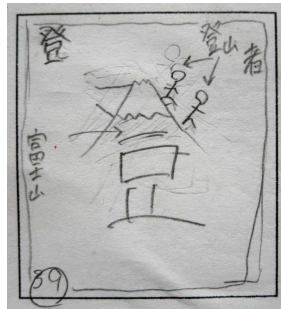
したがって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることにつながったと考える。

9 成果と今後の課題

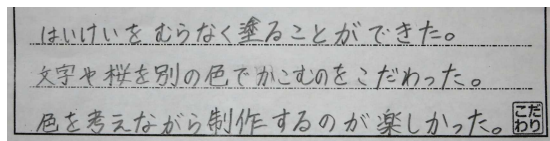
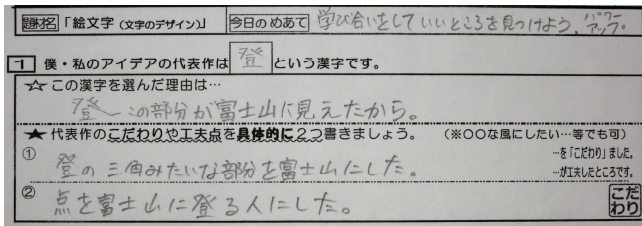
- ワークシートを活用した対話的な活動により、各自の思考が深まり主題を更に明確化できたことで、表現意図に応じた効果的な表現方法を創意工夫し、制作を総合的に考えた主体的な表現活動が行われ、意欲や思考力の高まりが見られた。
- 主題に込められた作者の表現意図や、形や色彩、構成などの表現方法を交流し合えたことで、各自の作品を独創的で更によりよいものにしようとする豊かな発想や構想が生まれ、分かりやすさや美しさなどの効果を考えた表現力の深まりが見られた。
- 学び合いにおいての視点やルールなどを提示していたが、グループによっては安易な方法で鑑賞活動が展開される場面が見られた。交流活動を効果的なものにするためには、学び合いの目的や進め方についてしっかりと確認する必要があると考える。
- 生徒によっては、捉え方が表面的であったり、深く思考するための時間が足りなかったりしたので、限られた時間内で生徒一人一人の見方や考え方、感じ方を深めるための個人差への対応の在り方を更に探っていきたい。



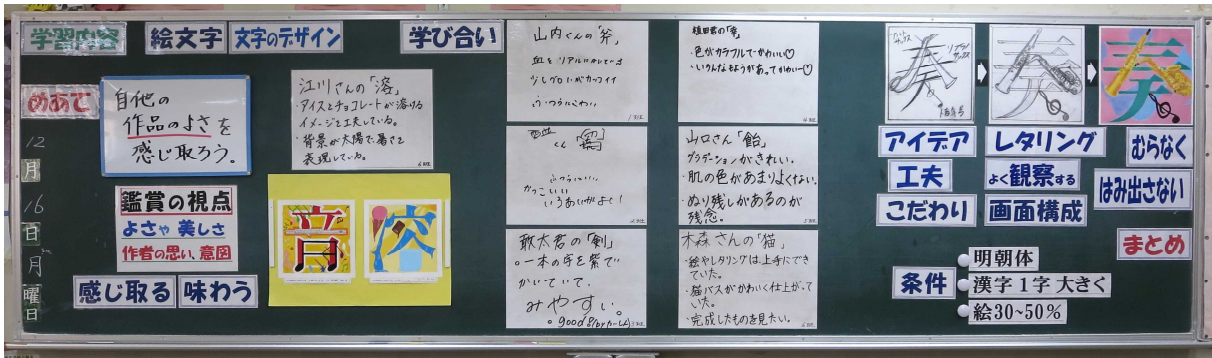
【資料 1】《ワークシート① 構想》



【資料 2】《初発のアイデアスケッチと完成作品》



【資料 3】《ワークシート② 発想時の表現意図と制作を終えての感想》



【資料 4】《学び合い②の板書》



【資料 5】《学び合い②の様子》



【資料 6】《完成作品》

◎ 参考文献

- 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編
- 中学校 新学習指導要領の展開 美術編

文部科学省
明治図書